

## 連携提案： バリアフリーな街づくりのためのプログラム開発と実践

キーワード： 共生社会 心のバリアフリー 街づくり ICT

臨床・健康教育学系 教授

藤井 和子 Fujii Kazuko

## 連携提案内容と効果

上越は、日本の特別支援教育の歴史のなかで、いち早く視覚障害教育を切り開いてきた街として知られています。2006(平成18)年に閉校していますが、上越市高田に高田訓練学校が新潟県知事の設立許可を得たのは1891(明治24)年です。公教育の制度が設置される以前のことであり、財源の公的基盤がない中での設置の背景には、医師、視覚障害当事者、教育者、地域の献身的な努力があったとされています。このことから、上越は、古くから、障害当事者とともに生きるという風土が根付いている街であると考えられます。

一般社団法人WheelLogでは、障害の有無を問わず、一人一人が情報の発信者となってバリアフリーな街づくりを目指すという理念のもと、バリアフリーマップアプリWheelLog!を開発し、全国でWheelLog!を活用した街歩きイベントを展開しています。私自身がこのイベントに参加する中で、バリアフリーマップアプリWheelLog!の持つ教育効果、市民におけるバリアフリーな街づくりへの当事者意識を涵養する効果に着目するようになりました。

一般社団法人WheelLogとも連携し、バリアフリーマップアプリWheelLog!を活用しながら、バリアフリーな街づくりへの当事者意識を高めるプログラムの開発を進めていくことを提案します。2014年、障害者権利条約を批准し、現在、わが国は共生社会の構築を進めています。雪国において、物理的なバリアフリーを進めることには困難がありますが、古くから障害当事者とともに生きる風土(心のバリアフリーの風土)のある地域で、共生の街づくりを目指していければと思います。

## アピールポイント

特別な教育的ニーズのある子どもたちの教育においては、教員間の連携、保護者との連携の他、医療・福祉・ICT等多様な専門家との連携が必要です。多職種と連携して子どもたちの特別な教育的ニーズに対応できる教員の資質向上を養成を目的とした学習会の開催を行っています。

## 連携したい分野

バリアフリーな街づくりへの知識、技能、態度の育成を目指し、教育活動を行おうとする学校。  
バリアフリーな街づくりへの市民の意識を高めたいと考えている自治体。

研究テーマ： 特別支援教育、言語・コミュニケーション障害のある子どもたちの教育

プロフィール	専門分野	言語障害教育 自立活動
昭和38年栃木県生まれ。平成7年から上越教育大学。上越市ひとにやさしいまちづくり推進会議委員(平成31年4月1日～令和3年度3月31日)。	主な研究内容	1)言語・コミュニケーション障害の指導法 2)通級指導教室担当教師の現職研修プログラム開発
関連URL		

## 関連する業績等

『特別支援教育と障害児の心理特性』(平成22年3月 共著 北樹出版)  
『通級による指導に関する研究の動向と今後の課題－自立活動の観点から－』平成27年5月 特殊教育学研究第53巻第1号  
『言語障害通級指導教室における発達障害を併せ有する児童の実態と指導上の課題』平成28年3月 障害科学研究第40巻

お問い合わせは、 研究室 fkazuko@juen.ac.jp